



公益社団法人 五所川原青年会議所

2017年度 理事長 宮崎 敬也

2017年度 LOM スローガン

挑戦

公益社団法人五所川原青年会議所2017年度理事長所信

公益社団法人 五所川原青年会議所
理事長 宮崎敬也

【はじめに】

昭和39年、第二次大戦後の国土の荒廃と混乱から人々が復興へと向かい、日本が高度成長期へと差し掛かる時に、「明るい豊かな社会」の実現を目的として五所川原青年会議所は創立されました。創始から今日に至るまで、先輩方と共に時代の移り変わりの中で地域的な課題や時事的な出来事に焦点を当て、まちや人の発展の為に必要とされる本質を汲み取り、市民意識の変革運動を展開しながら、明るく豊かなまちの実現に向けて挑戦して参りました。責任世代である我々はこの創始の精神を受け継ぎ挑戦し、地域の未来を切り拓かなければならないのです。

【公益社団法人の継続に向けて】

五所川原青年会議所は、国の公益法人制度改革により公益社団法人へと2012年度に移行し、既に6年目を数えます。現在において、多種多様な民間団体が地域の活性化を図るべく活動を行っている中で、この公益社団法人格は「民間が担う公共性」の高さを表す指針の一つであり、今後もまちづくり・ひとづくり運動を推し進めていくためにも、当会は公益社団法人としての責務を果たしていかなければなりません。

その為には、今後も行政との連携を図りながら明瞭な財務管理と法制管理の両立を堅持しつつ、総務委員会を中心とした総会の企画運営を行うと共に、定例会での設営を確実に取り仕切り、当会の運動発信が十分に果たせるよう取り組んで参ります。公益社団法人としての責務を果たし、広く地域からの信頼を得られることにより、我々の運動をより推し進めて参ります。

【青少年の育成に向けて】

子ども達の可能性は無限大です。明日の地域を支えていくのは、今この時を生きている子ども達であり、彼らの可能性を伸ばしていくことは、すなわち地域の担い手の成長へと繋がり、地域がより良くなることへと直結します。子ども達が自分自身の可能性を信じて挑戦し、未来を切り拓けるよう、我々は次代を担う子ども達が成長できる機会を創出していかなければなりません。その為には、子ども達に多様な事業を経験していただき、体験と学びにより自分自身と

向き合いながら、他者と心を通わせると共に、豊かな感受性と社会性を育むことで心身の成長を促して参ります。子ども達が心身共に成長し、自らの未来を切り拓ける人材となることで、明るい豊かな地域を創り上げると確信し、行動して参ります。

【伝統行事の継承に向けて】

「天下泰平」「国家安泰」「五穀豊穰」「悪疫退散」の祈りを込めて毎年開催され、本年度で45回目を迎え、いよいよ半世紀の節目が近づきつつある伝統行事「奥津軽虫と火まつり」は、先人達が自然との苦闘の歴史から生まれた「地域の幸せ」を願うまつりです。現代のように機械や技術の無い時代に、互いに支

え合いながら不撓不屈の精神で困難を乗り越え、地域の発展の礎を築かれた先人達に想いを馳せながら、これからも継承と発展ができるよう、関係諸団体との連携を密にしつつ、運動を展開しなければなりません。

その為には、関係諸団体との意識共有と連携を図りながら、近年に引き続き地域の次世代の方々に「奥津軽虫と火まつり」への参画を通して、まつりの意義を学ぶと共に地域へ広く伝えて参ります。半世紀を見据えて運動を展開していくことにより、この歴史ある伝統行事を継承・発展して参ります。

【前向きな社会参画とまちづくりに向けて】

国により掲げられた地方創生は、地方の停滞を払拭させ、日本全体の活力を上げることを目的とした政策ですが、実際に自分たちの住み暮らす地域をより良い形に変えていくことができるのは、その地域に住み暮らす「人」であり、人々による社会参画を原動力として地域活性をしなければなりません。その為には、2012年度から五所川原市との協定により実施されている五所川原市民討議会を開催することで、市民がまちづくりに携われる機会を創出するとともに、地域の持つ特色や課題について考え行動できる、前向きな社会参画意識を形成いたします。明るい豊かな地域の創造実現に向けて、単一の個人や組織のみならず、「市民」「行政」「当会」による連携と協働を図りながら、運動を展開して参ります。

【会員拡大と会員相互の協調に向けて】

青年会議所運動が地域に伝わり広がっていく力は、それに携わる会員の人数や会員相互の協調性に左右され、両者が高ければ高いほどその運動の力は比例し、目に見えて発揮されます。我々の運動がより大きな力で地域に伝播していけるよう、会全体が会員の拡大と交流推進について意識を共有し、取り組まなければなりません。その為には担当委員会が中心となり、会員獲得に向けた情報収集を行うと共に、会全体

での拡大へ取り組んで参ります。更には、会員相互の各種交流を図ることで「明るい豊かな社会」の実現を見据えた運動展開を共有し、行動できる組織づくりに働きかけます。会員委員会が会員拡大と会員相互の交流を推進を力強く推進していくことにより、「明るい豊かな社会」の実現に向けて着実に歩んで参ります。

【会員資質の向上に向けて】

我々は青年経済人として、また、「明るい豊かな社会」の実現を目的に掲げる組織の会員として、個々の資質を向上させることは必要不可欠です。それ故にこそ、20歳から40歳までの限られた期間において、青年会議所活動における様々な場面を学びの場と捉え、研鑽を積みながら経験を重ねて成長していかなければなりません。その為には、青年経済人としてのみならず、青年会議所会員としての視野も含めた多面的な視野での学びの機会を設け、自己の成長へ繋げると共に、資質向上を通じて得たものを会社や家族、地域へと還元できる人材の育成を図ります。会員一人ひとりの持つ力を高めることにより、当会のみではなく、ひいては地域が活性化するものと確信し、行動して参ります。

【結びに】

私は2004年に当時の社団法人五所川原青年会議所に入会し、先輩諸兄や仲間達、関係諸団体等、多くの方々との出会いと青年会議所運動を通じて、現在に至るまでに沢山の経験と学びを得ることができました。今にして振り返ると、未熟であった私にご指導や激励を授けながら共に活動をしてくださった先輩諸兄や仲間達がいたことは、私の心の財産となっています。

当会議所創始からの先輩諸兄も、互いに助け合いながら「明るい豊かな社会」の実現に向けた想いと教えを連綿と受け継いできたからこそ、今の私が居るのだと感じた時、私の役割は次代を担う人々や青年会議所の仲間達へバトンを渡すことなのだと気づきました。日々変遷する社会情勢は、先の見えない混沌としたものかも知れません。しかし、我々がそれぞれの心に抱いている地域への想いを持ち寄り、運動という形にして発信することにより必ず地域の未来は切り拓けると確信しております。

基 本 計 画

【 基 本 理 念 】

地域への想いをもち寄り、形にしよう

地域の未来を切り拓くために

【 基 本 方 針 】

- 1、公益社団法人の継続と責務の履行
- 2、自分自身の未来を切り拓く青少年の育成
- 3、半世紀を見据えた「奥津軽虫と火まつり」の開催
- 4、前向きな社会参画意識によるまちづくり運動
- 5、会員拡大と会員相互交流の推進
- 6、多面的な学びを通じた会員の資質向上

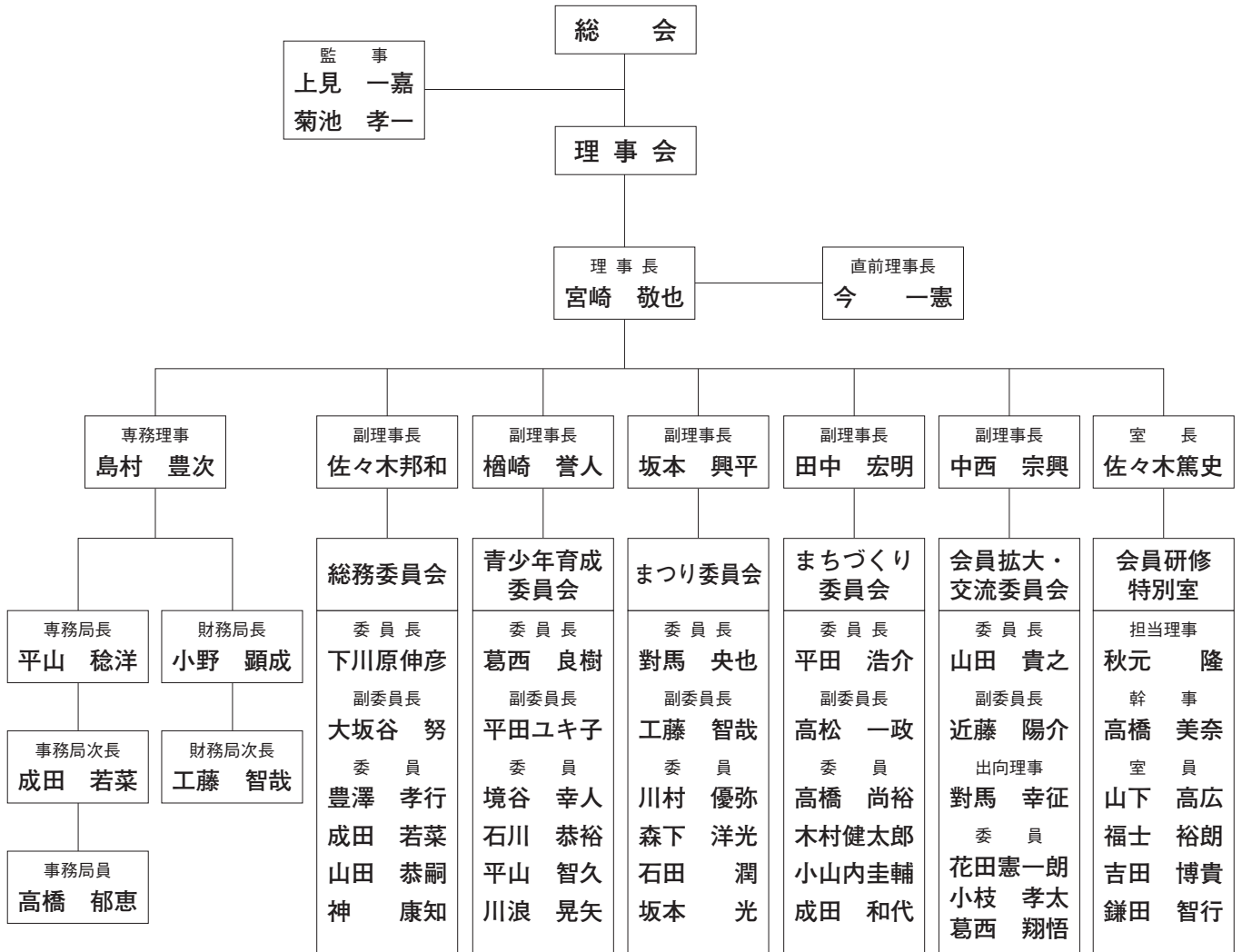
【 LOM スローガン 】

挑 戦

公益社団法人 五所川原青年会議所 2017年度 理事及び監事

理 事 長	宮 崎 敬 也
直 前 理 事 長	今 一 憲
専 務 理 事	島 村 豊 次
副 理 事 長	佐々木 邦 和
副 理 事 長	檜 崎 誉 人
副 理 事 長	中 西 宗 興
副 理 事 長	坂 本 興 平
副 理 事 長	田 中 宏 明
会 員 研 修 特 別 室 長	佐々木 篤 史
総 務 委 員 長	下川原 伸 彦
青 少 年 育 成 委 員 長	葛 西 良 樹
会 員 拡 大 ・ 交 流 委 員 長	山 田 貴 之
ま つ り 委 員 長	對 馬 央 也
ま ち づ く り 委 員 長	平 田 浩 介
会 員 研 修 特 別 室 担 当 理 事	秋 元 隆
事 務 局 長	平 山 稔 洋
財 務 局 長	小 野 顕 成
出 向 理 事	對 馬 幸 征
監 事	上 見 一 嘉
監 事	菊 池 孝 一

公益社団法人 五所川原青年会議所



2017年度 出向者一覧

〈東北地区協議会〉

■総務広報委員会	副委員長	中西宗興
■東北青年フォーラム運営委員会	委員	高橋美奈
■東北ゼミナール委員会	委員	田中宏明

〈青森ブロック協議会〉

■青森デザイン推進委員会	担当副会長	今一憲
	副委員長	高橋尚裕
	委員	佐々木邦和
■創発LOM推進委員会	委員	近藤陽介
■創発社会推進員会	委員	平田浩介
■創発地域推進員会	委員	佐々木篤史
■総務委員会	委員	小野顕成
■アカデミー大学	塾長	對馬幸征
	運営幹事	平山稔洋
	塾生	川村優弥
	塾生	川浪晃矢
	塾生	山下高広
	塾生	境谷幸人
	塾生	神康知
	塾生	石田潤
	塾生	小山内圭輔
	塾生	葛西圭翔
	塾生	森下洋光
	塾生	石川恭裕
	塾生	山田恭嗣
	塾生	福士恭裕朗